

## 4月定例記者会見の概要

1 日時 令和8年4月7日(火) 10時00分～11時00分

2 場所 本庁舎3階 第一会議室

3 出席者 <報道機関>

- ① 河北新報社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ② 朝日新聞社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ③ 読売新聞社 南相馬通信部 (南相馬記者クラブ会員)
- ④ 共同通信社 福島支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑤ 福島民友新聞社 相双支社 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑥ 福島民報社 南相馬支社 (南相馬記者クラブ会員)

計 6 社

### < 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

・副市長・小高区役所長・鹿島区役所長

・復興企画部長・復興企画部政策担当理事

・市民生活部長・健康福祉部長・こども未来部長

・商工観光部長・商工観光部企業立地担当理事

・農林水産部長・建設部長・総合病院事務部長

・総合病院経営企画担当部長・教育委員会事務局長

計 17 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

### 【市政報告】

新年度を迎え、市役所も新たな体制・顔ぶれで業務を開始いたしました。

はじめに、このたび、丸山副市長、ならびに伏見教育長が就任いたしました。新たな執行部体制のもと、職員一丸となって、市政運営に邁進してまいる所存です。

さて、令和8年度は、国の「第3期復興・創生期間」のスタートを切る、非常に重要な1年となります。

これまで南相馬市が検討を重ね、仕込んできた様々な事業を、市民の皆様の目に見える形で、しっかりと「形」にしていく。そうした実行のステージへと進めてまいります。それと同時に、復興・創生期間の「その先」を見据え、時代の変化に合わせた持続可能な組織づくり、そして予算規模の適宜見直しにも着手してまいります。

令和8年度、重点を置く事業のうち、3事業について申し上げます。

まず、「住宅施策の充実」です。例えばF-REIの本格稼働や、移住者の増加といった新しい動きがある一方、市内には多くの空き家・空きアパート・空き地の

増加といった課題があることから、空き地などを活用した住宅開発の検討を進めるなど、住まいの確保に向けた取り組みをさらに加速させます。

次に「地域医療の充実」です。市立総合病院と地域の医療機関との連携をさらに深めるとともに、救急医療体制の整備など、一步ずつ、着実に取り組みを進めてまいります。

さらに、地域の活性化の核となる「南相馬鹿島サービスエリアの周辺開発」につきましても、スピード感を持って事業を推進してまいります。

こうした課題に的確に対応するため、今年度は組織と人員の配置を最適化いたしました。

組織の見直しについては、業務の効率化を図るため、人数の少ない課や係を中心に再編や統廃合を行い、その結果、96人の管理職を88人へ、163人の課長補佐・係長職を147人としました。その上で、重要施策の推進役として、「住宅政策室長」や「地域医療政策担当主幹」、さらには「SA周辺開発推進技術担当課長」などを新たに配置し、専門性と現場での実行力を強化しております。

また、財政運営につきましても、将来を見据えた健全な規模を維持するため、例えば類似団体も参考にしながら予算規模の見直しに着手してまいります。

私たちは今、復興を加速させる一方、それと同時にその先の新しい南相馬市を創り上げる、大きな転換点に立っています。市民の皆様お一人おひとりが、このまちで「家族や友人と暮らす幸せ」を実感できるよう、全力で取り組んでまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

次に、前回2月25日の記者会見から最近までの出来事についてご報告いたします。

はじめに、東日本大震災追悼式についてです。

3月11日に、東日本大震災追悼式をゆめはっとで執り行いました。ご遺族など222名の皆様にご参列いただき、犠牲となられた方々に対し、哀悼の誠を捧げるとともに復興を誓いました。

次に、市制20周年記念ロゴマークについてです。

今年1月に市制20周年を迎えたことを記念し、ロゴマークを募集しました。応募総数は157点にのぼり、3月26日の市民検討会議の選考結果を踏まえて決定いたしました。この作品は、市の花「サクラ」と市の鳥「ヒバリ」、そして国の重要無形民俗文化財にも指定されている「相馬野馬追」をモチーフにデザインしたとのこと。

決定したロゴマークは、記念イベントをはじめ、市の刊行物など、様々な場面で広く活用してまいります。このロゴマークをシンボルとして、市民の皆さんと一緒に20周年を盛り上げていければと考えております。

次に、市議会定例会についてです。

3月30日に第1回南相馬市議会定例会が閉会しました。この議会では、令和8年度当初予算など議案47件について、全て原案どおり可決・同意されました。

これらに基づいて、4月1日から順調に新年度事業をスタートしております。

次に、みらい農業学校についてです。

地域農業の持続的な発展を目指して開校したみらい農業学校ですが、3月13日に第2期生7人の卒業式が執り行われました。卒業生の進路としては、雇用就農が市内に2人、市外に1人、独立就農は市内が3人、市外が1人とのことです。

また、4月10日には第3期生13人の入学式が執り行われる予定です。入学生の内訳としては、市外から9人、市内から4人となります。うち相馬農業高校の卒業生は4人となります。

卒業生の方々には、地域農業の発展にこれからもご尽力いただきながら、入学者の皆さんには、次世代を担う農業者となっていただけることを期待しています。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、中学生海外研修事業の報告会についてです。

中学2年生を海外に派遣する中学生海外研修事業では、令和7年度は、11人をオーストラリアに派遣し、今回9人を3月24日から28日までの間、シンガポールに派遣しました。

学生たちがシンガポールでの企業訪問や文化交流を通じて体験したことや気付きについての報告会を、4月25日に原町区のサンライフ南相馬で開催します。

最後に、相馬野馬追に関する話題についてです。

4月26日に、相馬野馬追の振興と乗馬技術の向上を目的とした「相馬野馬追振興春季競馬大会」が雲雀ヶ原祭場地で開催されます。

そして、相馬野馬追の開催まで残すところ46日となりました。4月13日まで出場騎馬の申し込みを受け付けておりますが、4月6日時点で、393騎の申込がありました。また、観覧チケットの販売状況としましては、マス席や砂かぶり席などの指定席、計2,638枚、5,934人分は完売しました。現在は、自由席券のみご購入いただける状況です。

なお、相馬野馬追の詳細は内容が固まり次第、改めてお知らせいたします。

## 【質疑応答】

質問1：

市政報告で言及があった住宅政策について、空き家問題は全国的に深刻です。更地であれば整備の方法がさまざまありますが、所有者にとっては、固定資産税の負担増を懸念して上物を壊せない現状があります。空き家対策への見解を教えてください。

回答1：市長

新しく「住宅政策室」を作り、これから具体的な方針・政策を作っていく段階です。

現在の課題認識として、放置された危険な空き家や、古い空きアパートが増加していることは、思い切って手を入れないと負の財産になってしまうと危惧していま

す。一方で、移住政策を進める上で、新しい住宅を作るだけでなく、現在の住宅をどう活用するかも重要な視点です。

古い空き家の処分と同時に、移住政策に資するようなプラスの住宅政策の両輪を進めます。ただし、市内全域を一斉に支援すると多額の費用がかかるため、優先順位付けや、モデル地区・推進重点地区を設けるなどの対応が必要だと考えています。固定資産税の問題や、空き家と希望者をマッチングする手間など、さまざまな課題を含め、効果的な策をできるだけ早く出すために専属の室を設けました。

**質問 2 :**

相馬野馬追について、4月6日時点での申し込み393騎の男女別内訳と、前年度比を教えてください。

**回答 2 : 商工観光部長**

各騎馬会からの名簿が揃っておらず、男女別の数は把握できておりません。前年の最終的な申し込み数は394騎でした。

**質問 3 :**

住宅政策で優先開発地区やモデル地区を設けた場合、該当しない市民への公平性をどのように担保するのでしょうか。

**回答 3 : 市長**

非常に難しい問題と認識しています。一般論としては、市内全域への基本的な支援策を設けた上で重点地区を設定する、2段・3段構えの構想が考えられます。

**質問 4 :**

昨年は女性参加制限緩和の初年度でしたが、準備不足で辞退した方もいました。現時点で女性の参加数はどれくらい増えそうでしょうか。

**回答 4 : 市長**

現状は総数のみ把握しており、女性の参加見込み数は不明です。正式な締め切り後に公表いたします。高齢化に伴う若返りは課題ですが、長年支えてきた方々も重要であり、若手や技術がある方の増加には多様な視点での対応が必要となると考えています。

**回答 4 : 商工観光部長**

追加情報として、昨年度の野馬追指定席販売は1, 829枚でしたが、今年度は特別席の増設により現時点で2, 638枚と増加しています。

以上